

# 岡崎文楽

解説—文楽の魅力

演目

一、妹背山婦女庭訓  
いもせ やまおんな ていきん

みちゆきこいのおだまき  
道行恋芋環

二、傾城反魂香  
けいせいはんごんこう

とさのしょうげんかんきよ  
土佐将監閑居の段

恋のしがらみ蔦かづら

絵姿は苔に朽つるとも、  
名は石魂に止まれ

令和5年

7.7 金

開演 16:00 開場 15:30

7.8 土

開演 11:00 開場 10:30

【会場】

岡崎市せきれいホール

【主な出演者】

〈太夫〉竹本綴太夫

〈三味線〉竹澤 宗助

〈人形遣い〉桐竹勘十郎(人間国宝)

※公演内容・出演者については一部変更になる場合がございます。

【入場料(全席指定)】

一般 4,500円 学生※ 1,000円

※学生席(小学生～大学生/原則22歳までが対象)は席に限りがございます。

【チケット発売】

5月21日(日) 10時から【電話予約】13時から

※窓口販売は岡崎市民会館・岡崎せきれいホールのみ

【チケット取扱場所】

◆岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511

◆岡崎市民会館 ☎0564-21-9121

5月21日(日) 10時から

チケット Pコード【519-065】  
https://t.pia.jp/



Bunrakuチケット

https://t-tike.com/bw-ticket/



※未就学児の入場はご遠慮ください。  
※ご来場の際には、公共交通機関をご利用ください。  
※予約・郵送の取り扱い等については各販売所へお問い合わせください。

【お問合せ】岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511 FAX 0564-25-0512

〒444-0022 岡崎市朝日町3丁目36番地5

主催／岡崎市・岡崎市民会館・岡崎せきれいホール指定管理者一般社団法人岡崎パブリックサービス  
共催／中日新聞社 制作協力／公益財団法人文楽協会



〈人形遣い〉 桐竹勘十郎 (人間国宝)



〈三味線〉 竹澤宗助



〈太夫〉 竹本綴太夫

主な出演者

# 妹背山婦女庭訓

## 道行恋苧環

杉酒屋の娘お三輪には想う人ができませんでした。最近隣家へ越してきた烏帽子折の求馬である。添い遂げられるように、七夕飾りに赤糸と白糸の苧環を供えて祈っている。苧環は糸繰りに使う道具です。

ところがその求馬のもとに高貴で謎めいた橘姫という姫が近付いて、やがて求馬の元を去ります。求馬が橘姫を追って行ったので、お三輪も二人の後を追いかけてきました。二人に追いついたお三輪は、橘姫をけん制し、橘姫もお三輪にやり返し、求馬を挟んで二人の女が諍います。求馬は苧環の白糸の端を逃げる姫の袖に付け、お三輪は求馬に赤い糸をつけ、その糸を頼りにそれぞれが暗い山道を進んでゆくのでした。

# 傾城反魂香

## 土佐将監閑居の段

舞台は京都。土佐将監光信は宮廷絵師でしたが、他の絵師との争いが原因で謹慎処分を受け、山科で侘びしく暮らしています。そこへ百姓たちが、竹藪に虎が逃げ込んだ

と大騒ぎしながらやって来ます。日本に虎などいるはずがないと弟子の修理之介が探すと、そこには一匹の虎が…

将監は足跡が無いのを見て、以前、狩野元信が描いた絵から抜け出した虎だと見抜きます。修理之介は筆を使って虎の姿を消すことに成功し、将監に土佐の苗字を許されることになりました。

将監のもう一人の弟子である浮世又平は、出世の縁に恵まれず、貧しさをしのぐために、自作の大津絵を売って暮らしています。いつものように又平が女房おとくと共に師匠の見舞いに来ました。うまくしゃべれない又平の代わりにおとくが出迎えた奥方に挨拶を愛想良く述べます。

夫婦は弟子の修理之介が土佐の苗字を許されたこと聞き、又平にも土佐の苗字を許してほしいと必死で願ひ出ますが叶えられません。将監からは、苗字が欲しければ絵で功を挙げよと叱咤されます。それを聞いた又平は、口惜しきで悲嘆に暮れるのでした。

狩野元信の弟子である狩野雅楽之介が突然、息せき切って駆け込んできました。聞けば、師匠の元信が襲われ姫まで奪われたという一大事。将監は、姫を助けるために修理之介を送り込もうと考えます。

なんとか手柄を立てたい又平は、自分をその使者に遣わしてもらいたいと将監に泣いて頼みますが、焦れば焦るほど言葉になりません。将監は修理之介に使者を命じたのでした。又平はそれでもなお急ぎ出発しようとする修理之介を抱き留めて、自分に行かせてくれ

と懇願しますが、振り切られ女房にまで情けない気が狂ったか、といわれ失意のあまり声も惜しまず泣き伏します。

絶望した又平夫婦…おとくは庭にある手水鉢を石塔と見なして自画像を描き自害するよう夫に勧めます。

又平は死の覚悟を決め最後の筆を振るいませず。すると不思議なことにその一念が通じたのか、描いた絵が手水鉢を通して反対側に表れ、一度に両側に描いたかのようになりました。さすがに将監も驚き又平に土佐光起の名を与え、使者になることを命じました。

しかし、問答ができるだろうかかと将監は案じます。おとくの勧めで又平は将監の前で舞い、謡い、節が付けば言葉が滑らかに出ることを将監の前で見せます。それを見た将監は、餓別代わりに又平の姿が描かれた石塔を真っ二つに斬り倒すと又平に奇跡が…。意気揚々と姫を救いに行く又平でした。



バス 名鉄東岡崎駅北口(ターミナル)から中岡崎行、約10分

バス停「岡崎市役所」下車 東へ約100m

徒歩 東岡崎駅より約20分(1.2Km)

せきれいホール駐車場30台

【土・日曜日、祝日】市役所東立体駐車場も利用可能250台/8:30～催事終了

※駐車場には限りがありますので公共交通機関をご利用ください。